

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsuushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitsuushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299-5367

郵便振替 〇〇一〇〇―九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

〈もくじ〉

■巻頭言■

現代政治と小選挙区制導入(一)

伊勢 太郎：2

敵を知り戦争に反対する力を

強化するために

原野人：3

『被差別部落に生まれて・・』

稲村 守：5

石川一雄が語る狭山事件』を読んで

感想―第29回新社会党大会

：7

私の大会発言

木山 誠二：7

―「社会主義論の再考」、北海道の組織状況―

◇資料1◇

新社会党第29回定期全国大会議案修正案(新潟県本部)：9

◇資料2◇

新社会党第29回定期全国大会議案修正案(神奈川県本部)：11

読者からのおたより

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

12

旬刊社会通信

NO.1383

二〇二三年九月一日号

二〇二三年九月一日発行

現代政治と小選挙区制導入（一）

政治は権力をめぐる政党間の闘争です。現代は議会制民主主義の時代、数が力ですから、選挙が最大の政治闘争です。「自民一強」をメディアが云いだしてから、おごる自民の腐敗・墮落はかぎりありません。自民政治への怒りが爆発してもよさそうですが、投票率は下がる一方です。投票率は国民の成熟度ですから、国民は惰眠をむさぼったままの状態にあるということです。

権力をどの政党がとるかで政策は根本的に変わります。自民党は独占資本の利益を第一におく政党です。いまの政治を変えるには自民党と対立する政党と塊を大きくしなければなりません。

最近の傾向は、進歩的な政党が伸び悩みか消滅しかかっているのに、いしんに励まされるかのように、極右のルンペン・プロレタリア層を基盤とする政党が伸びています。政治反動はものすごい、「おかしいじゃないか」という正義の政治勢力がそっぽをむかれ、防衛力をふやす政治勢力が勢いを増しています。なぜか。

第一は歴代自民党政府が導入を目ざした小選挙区制度が、非自民・非共産の細川連立内閣時代（1994年1月）に成立、同年12月施行されたことです。村山さんが自民党にかつがれて総理大臣になったのは94年6月でした。細川さんはルンペン・インテリゲンツィアです。しかし、独占資本とその政治勢力である自民党にすっかり奉仕しました。各紙は6月末、細川氏は小選挙区制導入について、「政権交代を経験し、穏健な多党制の中で機能している」「二大政党制を必ずしも求めたわけではなく、穏健な多党制が日本の国民性に沿っている」と述べたと報じました。

村山さんが首相になり、社会党はこわれ消滅していったのです。社会民主党への改名改称はその結果に他なりません。細川氏がいうように「穏健な多党制」という状況になったのです。

第二は本当の社会党の変質と消滅の原因は1977年始まった社会党の左派攻撃、いわゆる社会主義協会攻撃です。その後、労働戦線の右翼的再編の策動、総評の機関車であった国労をはじめとする公労協組織への民営、分割化攻撃、そして小選挙区制導入をテコとした政界再編成です。1990年代以降の20年の間に社会主義、階級闘争をたたかう政治勢力はあるかなきかにされてしまったのです。

社会党左派勢力を引っ張ってきたのは党では向坂逸郎、労働運動・大衆運動では岩井章です。向坂の死（1985年1月）以降、社会主義協会は衰弱しました。岩井さんが「今も資本主義に変わりない、社会主義めざしがんばれ」と檄を飛ばしつづけてきましたが、岩井さんも1997年に没しました。世界的大反動もこの時です。

新社会党がつくられたのはこの前後の1995年です。新しい組織結成は、指導者に飛躍を求めます。衆参五人の国会議員、百名をはるかに超える地方議員、そして百

戦錬磨の活動家党員です。

民主党は政界再編で総保守の政治勢力が作りまりました。自民に代わる新しい政党が必要だとのメディアの大宣伝がつくったのです。出世主義者―出世に見切りを付けた官僚、弁護士、医師、タレント等―が民主にナダレ込みました。自民の失政下、民主党が多数を得、政権を取ったのは2009年です。

民主党は組織も世界観ありません。首相は3年間にルンペンインテリの鳩山さん、市民主義者の菅さん、保守主義者の野田さんと変わりました。渡り鳥のように政党を転々とし、自民に行きついた人も少なくありません。こんな政党をだれが信用するものですか。ですから、国民を結集することはできません。

こんな時、2008年と10年に産声を上げたのが大阪維新、日本維新の会です。大阪自民党の分裂です。自民の分裂は1975年、河野洋平の新自由クラブ結成がよい見本ですが、現役国会議員の何人かが自党のおかれた苦しさに絶えられず党を飛び出し新しい党をつくる、しかし、組織はありません。時間とともに忘れられ、古巣にもどっていく。そのくり返しが自民党分裂の帰結でした。(伊勢 太郎・つづく)

敵を知り戦争に反対する力を強化するため

6月23日には78年前に沖縄戦で20万人以上が犠牲になった人々を追悼する「慰霊の日」を迎えた。続いて8月6日、9日、15日を迎えるたびに悲しみと怒りがよみがえる。

玉木デニー知事は沖縄全戦没者追悼式において平和宣言で、昨年閣議決定された安全保障関連三文書に懸念を示した。出席して挨拶した岸田文雄首相は、当然に沖縄県民の、怒りと不安を込めたまなざしを浴びた。数年前に当時の安倍首相がここで受けた多くのまなざしと変わらない。

米誌タイム(電子版)は、岸田首相を単独で5月22、29日号の表紙に掲載した。

「日本の選択」と題して「首相は数十年の平和主義を捨て、自国を真の軍事大国にすることを望む」と紹介している。同誌が首相公邸で単独取材したもので、岸田政権での国防費増大や米国との同盟強化などの政策に触れ、「世界第3の経済大国を、それに見合う軍事的影響力を持った大国に戻すことに着手した」と指摘した。また、こうした変革は「同じく右派の自民党に所属した安倍晋三元首相が唱えてきた」と言及した上で「タカ派的だった安倍氏が(国論を)二分した一方、岸田氏の持つハト派の顔が大きな抵抗なしに安保改革を可能にした」と評した。

ただ、日本の軍事力強化が周辺の安全保障環境を不安定化させ、中国との摩擦を強める恐れにも言及。「岸田氏の長年の公約である核なき世界への努力と相いれないと考える人々もいる」と指摘した。

このような米誌の報道によっても、独占資本の政治的代理人である自民党の、ハト派は今やかつてのタカ派よりも反動化している。広島出身を売りにしている首相の主張に、核兵器廃絶もなければ核軍縮もない。核の傘の下で事実上の核共有を進める。

「台湾情勢」を利用して、沖繩を含む西南諸島を「最前線」と位置付け、沖繩の自衛隊部隊を増強し、陸から艦艇を攻撃する地对艦ミサイル、航空機やミサイルを迎撃する中距離地对空ミサイルを運用する部隊を配備した。奄美大島、宮古島、石垣島、与那国島には自衛隊駐屯地を開設した。台湾、中国との緊迫感をあおり、有事を想定させる。沖繩には米軍基地がある上にこれら自衛隊基地が増強されるのだから、「台湾有事」となると真っ先に標的にされ、78年前以上の猛攻撃を受けるのは火を見るより明らかである。

この国ではノーモアヒロシマ、ナガサキという。かの国ではリメンバー・パールハーバー（真珠湾を忘れるな）という。

もし「敵基地攻撃能力」を持つことなく、安倍晋三の祖父岸信介も加わった閣議決定による真珠湾攻撃がなかったら、ヒロシマ、ナガサキはなかった。

1942年のミッドウェイ海戦とガダルカナル島の決定的な大敗北で、もし降伏していたら、日本兵300万人の戦死はなかった。

日本軍による民間人犠牲者2036万5000人（中国人1239万2000人、インドシナ150万人、朝鮮人50万人、オランダ領東インド300万人等々）の大半は死なずに済んだはずである。

朝鮮半島の植民地支配をせず、あるいはもっと早くやめていたら、南北の分断はなく、朝鮮戦争もなく、拉致問題も起きなかったであろう。

1942年に降伏していたら、東京大空襲等々の本土の空襲は皆無であったはずだ。せめて東京大空襲で降伏していたら、20万人超の命を奪った沖繩戦はなかった。

もし沖繩戦で降伏していたら、ヒロシマ、ナガサキはなかった。……………

当時の国家も、基本的には今日と同じ独占資本を頂点とする資本家階級の機関であった。帝国主義に転化し、さらにファシズムとなった極めて反動的な国家であった。

帝国主義となった独占資本にとって、労働者や農民の命など、蟻ほどの重みもない。己のより多い利潤のためなら、より大きな市場と資源確保のためなら、開戦もいとわない。兵器を消費する戦争自体も利潤をもたらし、敗戦がいかに鮮明になっても降伏は最後の最期まで引き延ばす。

「国のため」とか「お国のため」とかいつても、あくまでも一握りの大資本家階級のためであって、圧倒的多数を占める労働者国民のためでは断じてない。

復活したロシア帝国主義は、米西欧帝国主義諸国とウクライナの舞台で戦争している。「法の支配」を声高に叫ぶ岸田首相は、速やかな終戦を呼びかけるのではなく、日本国憲法を蹴飛ばして、軍拡を進め、米西欧諸国に連帯し戦争を支援する。いずれの諸国でも、労働者国民の命は虫けらのように奪われている。

われわれはいかなる戦争にも反対して、独占資本と国家に、憲法を守って非武装・中立を実現することを求めて闘う。横暴な保守反動国家に代えて、憲法を順守するよりました国家を求めて闘う。さらにすべての国々の労働者階級と連帯・団結し、独占

資本を孤立化させ打倒して、労働者階級の国家（歴史的任務を果たした後にやがて滅する人類最後の国家）を勝ち取るまで闘う。

万国の労働者団結せよ！ というマルクスの呼びかけはいよいよ力強く新しい。

（原 野人）

『被差別部落に生まれて・ 石川一雄が語る狭山事件』を読んで

文字を取り戻し、命をつないだ！ 最初に覚えた字は「無実」！！

3万字の書き取り宿題で、夜中の1時、2時まで勉強

類書にない石川一雄さんの幼少期と勉学のオーラルヒストリー

2023年5月17日に発行された静岡大学・黒川みどり教授著の岩波書店『被差別部落に生まれて・石川一雄が語る狭山事件』を読んだ。

権力の犯罪 1年間10数回にわたり埼玉県の狭山に通い、石川夫婦にじかに聞いてまとめたオーラルヒストリーである。これを著者から贈呈されて読んだある先輩から、「国家権力との闘い、部落差別を生んだ権力犯罪ということも、裁判での再審請求の第3次の山場になっていくということももちろん大事だが、被差別部落で文字を奪われていたことによって警察の餌食となって死刑囚にさせられた石川一雄さんごどのようにして文字を取り戻していったか、「看守さん」が毎日文字を教えて書き取らせていったということが書いてある、類書にない本だ。」と、ぜひ入手し読みなさいとのことだった。

私は狭山事件についてはこの事件に限ったニュースはもちろん、専門の機関誌も出され、たくさんの本やパンフレットが発行され、こういうことは語りつくされているものと思っていたが、意外とそうではなかった。学生時代からずっと部落問題やなかく狭山闘争に詳しいような総評オルグの大先輩であるその先輩なども、石川一雄さんの文字の獲得の詳細などを明らかにした本はこの著が初めてという。

石川さん 貧しい被差別部落に生まれ、小学生時代の10歳から18歳まで農家などに「奉公」に出され、ともに字も読めず書けず、弁護士が自分の味方だと知らず、逆に草野球のコーチをしてくれる警官に騙され、脅されてやってもいない殺人事件を自白して、一審で死刑囚となった石川さん。

「10年を出してやる（だから殺人を自白せよ）」という「男の約束」をした警察官に騙されたことに気づいて「看守さん」に打ち明け、「無実」の字から覚えていった石川さん。しかし毎日の書き取りはきつかった。夜中の1時でも2時でも（死刑囚だからできた）1万字、2万字、3万字の宿題を出され、さぼると翌朝怒られた。「無実なのに死刑執行されていいのか」と。そのお連れ合いさんが石川さんの父母の名前で、便せんや切手やボールペン（当時は高価だった）をずっと差し入れてくれた。

勉強 その「看守さん」の学生時代の同級生・友人が部落問題の研究会にはいつ

いて、狭山事件の石川被告は無実だという勉強をしていたとのこと。その「看守さん」は普通4年で異動だが、所長に談判して8年に延ばしてもらい、午前中は死刑執行があるからその時間で部屋に来て字を覚えさせ、石川さん自身広辞苑を10年でポロポロにしたという。皆わからない字ばかりだったから、と。5年間は勉強のため両親の面会も断り、字を覚えて勉強して粘り強く、辛抱強い性格になってきたという。

7年の勉強でなした手紙を書く喜び、その返事を読める喜びは何物にも代えがたかったという。今も「現地闘争本部」事務所を立ててもらったので、全国の集会に「あいさつ文」をそこにこもって書く。できるだけダブらない中味を書くという。丁寧な美しい字で。びっしりと細かい字を書くのは、昔拘留所内での便せん枚数制限などのせいだという。あの本をたくさん書いた永山則夫以上に勉強したという自負がある。刑務所一だ。

仮出所 獄中32年で、94年に仮出所して2年後に結婚した早智子さんは徳島の自治労所属だった。国保連の職組。各県にある。たまたま東京出張があり、仕事を終えて狭山に石川さん激励の職場の寄せ書きを持参したら、運命の出会いができ、2年後にご結婚。一番楽しかったのは2人とも、2008年に国連・人権規約委員会への要請行動でジュネーブ・スイスに行ったこと。「あの狭山事件の石川だ」と言われないうところで、自由を得たという。

7歳年下の早智子さんが石川さんに2度助けられたという。たまたま自治労で支援していたので石川さんのメッセージを読んで、自殺を思いとどまったのが1つ。2つは、警察のうそを実証するため、犯人のものより小さい、自宅にあった兄の足袋をはいて一雄さんが現場を歩いてみることになり血だらけになったが、医師がついてきてくれ、たまたま周辺の人の血圧測定をしてくれて、早智子さんの危険な高血圧が発見され、その後の処置がなされてきた。

文字 決して「不当逮捕、死刑判決のおかげ」とは口が裂けても言えないが、民衆が文字を獲得することの大切さ、学習がその人格形成にも大きな影響を与え、部落差別からの解放闘争の粘り強さ、国家権力の横暴との闘いにも正しく指針を示しているものだと、改めて考えさせられた本だった。ぜひこの夏以降、再審無罪を勝ち取り、晴れて一雄さんの父母のお墓まいりができ、スイスにもう一度、今度は何の規則・制限も気にせずに本当に自由にお2人で楽しめることを祈りたい。

文字を取り戻した石川さん本人の無実の訴えが人々の心をとらえ、大内兵衛・元法政大学総長と末川博・元立命館大学総長の呼びかけでの石川さん無実の署名・訴えが全国に野火のように広がり、国民大行進、児童生徒の狭山同盟休校、中央総評の決起集会での石川さんの両親の訴え、10万人集会に11万人の結集などにより、野蛮な警察・検察・司法などの日本の国家権力が死刑執行を強行できず、仮釈放せざるを得なかった。次は名実ともに再審無罪の獲得、見えない手錠からの解放である。

(2023年7月3日 稲村守)

感想 第29回新社会党大会

暑いですね。昨日（7月15〜16日）の東京も暑かったです。

大会は天気ほど暑い議論になりませんでした。数年前の4号・5号時に比べればお互いがはっきりしだした感じです。その一方でいろんな問題（トランスジェンダーなど）が、中央に意見や反対する県本部が広がり、塊の境が広がってきたと思います（悪く言えばそれだけ中央指導部が論理と指導性が弱くなっている）。

採決の結果（違いがあるかも知れませんが、大枠は変わりなし）

投票総数 102人

新潟修正案	賛成・22人	反対・77人	保留・1人
神奈川修正案	賛成・23人	反対・77人	保留・0人
本部 1号	賛成・77人	反対・21人	保留・2人
本部 2号	賛成・90人	反対・4人	保留・6人
本部 3号	賛成・86人	反対・11人	保留・2人
本部 4号	賛成・92人	反対・5人	保留・3人

※ 1号は活動、2号は財政、3号は党費、4号は代議員選出基準の方針です。

「トランスへの新社会党の立場」は岡崎さんが15日の一日目が終わってからで、大変良く出来ていると思います。16日の最終集約で発言することを言われていたのですが、15日に何人もがその問題で発言し、特に香川の井角さんが一番的確に発言しました。

整理として次の機関紙「新社会」は大会特集号となりますので、その次の号で岡崎集約とこの間の経過を含めて特集的に出すとなりました。大会のポイントは本号の資料1と2の修正案と、木山発言をごらんいただければよくわかると思います。

私の大会発言

「社会主義論の再考」、組織強化」

私は、北海道本部木山代議員です。元国労闘争団に所属しておりました。国鉄闘争では、中曾根康弘の国労つぶしのヤミポカ・権利剥奪攻撃を含めると30年を超える闘いでした。大変お世話になりありがとうございました。

私は、神奈川県本部と新潟県本部の二つの修正案に賛成の立場で発言します。党の組織強化を基本に発言します。

一つは、2020年度の第25回定期全国大会方針で「社会主義論の再考」が提案されました。何を今頃というかもしれませんが、私は意見書を提出し、一昨年の大会では発言しましたが、本部の回答はありませんでした。

「社会主義論の再考」は、用語解説として「社会主義論」も付帯提案され、その内容は、国有化、計画経済、中央集権化のソ連社会主義は崩壊したとしており、社会主義革命に国有化などは不要という認識を与える内容になっています。

提案の「社会主義論の再考」の考え方は、新社会党の綱領（21世紀宣言）とは相容れない内容であることは明白です。

北海道では「党員の学習は自由だ。」という反論もありましたが、党員個人が学習することはまったく自由です。しかし、本部が党の革命理論と違う理論書を提案して学習を薦めることは組織論に反することです。私たちは、社会党を解体した苦い経験を持っていきます。「解体された」と他人事にははいけません。自分の弱さです。

党の綱領を曖昧にして取り扱うことは、党運営に大きな禍根を残すことになります。本部はどういう狙いをもって「社会主義論の再考」を提案したのか明らかにして頂きたい。

参考までに、ソ連社会主義崩壊の原因について原野人さんは、官僚主義と計画経済とは両立しえない。社会主義の建設には、民主主義の確立が不可欠であることが証明されたにすぎないとしています。

私は、「社会主義論の再考」ではなく、ソ連社会主義崩壊の原因を明らかにする議論を行うことで、社会主義革命に確信が持てると思います。それが、組織強化になります。

二つには、北海道本部では離党者が続出する異常な組織実態となっています（元国労闘争団党員十数名）。しかし、この実態を認識しながら北海道本部を指導しない本部の責任は重大です。

北海道本部では、先の参議院選挙前に組織の2割近い離党者が続出し、二つの支部が解散するという悲惨な組織状況になりました。

離党続出の原因は、道本部書記長が、本部方針の「4号・5号議案」についての支部代表者会議で、これに反対した一部党員を誹謗中傷する「感想」文を機関紙・『道本部通信』で出したことです。

その内容は、国鉄闘争には新社会党も自分自身もカンパを出した、越冬資金も出した、物販も買った、集会にも参加した。しかし、①闘争解決で元国労闘争団所属党員の多くが離党したと一方的に批判をしました。また、②「4号・5号」議案に反対した党員は元国労闘争団所属党員であった。そして、③元国労闘争団所属党員は、お金をださせて大変お世話になった本部役員を批判した、というものです。

批判された党員は、国労組織への不当介入であること、恵んでもらって盾突く恩知らずな人間という批判は前近代的な人権侵害行為であるとして撤回・謝罪・辞任を要求しましたが、道本部書記長は「国労を批判していない。人権侵害ではない」と聞き直り、道本部委員長も書記長を擁護したことから紛糾し今日に至っています。

私は、参議院選挙を前にした組織の非常事態を、岡崎委員長に文書で報告をして調査・組織対策を求めましたが、何ら動きのないままに参議院選挙に突入し、当然、北海道本部は惨敗でした。

参議院選挙に悪い影響が出ることははっきりしているにもかかわらず、何故、北海道本部を指導しなかったのか疑問です。大量離党の実態を「見て見ぬ振り」をした本部の責任は重大です。明確な理由を明らかにして頂きたい。

弱小の新社会党の政策提案で政治状況が変わる可能性はまったくないにもかかわらず、「4号・5号」議案を強行採決までした本部の強引な姿勢が、道本部書記長を不法・不当行為に走らせた原因だと考えます。

最後に、 なりますが、憲法9条改悪を阻止する力は、立憲野党の共同行動です。これに全力を上げるべきです。

自民・公明・維新などの、立憲野党に対する共闘を批判する攻撃には、理屈で返しても政治不信を煽るだけになります。立憲野党の共同行動の姿を数多く見せることで、やっぱり立憲野党の共闘が政治を変える力になると多くの市民が認識するのです。これが、選挙での立憲野党の統一候補当選の力になります。

衆議院選挙北海道一区内の、札幌市中央区の立憲野党共同行動実行委員会（ストッブ9条改憲！国民主役の政治を！中央区実行委員会）は、6年前から月9回（朝街宣5回・昼街宣4回）、年間100回の街宣行動を継続しております。朝街宣5回の内1回は、二つの高校生が利用する地下鉄前で行っております。

この回数と継続の力が、立憲野党統一候補を二期目も当選させた力になっています。私は、立憲野党の共同街宣行動を回数や内容も重要視していますが、一番大事にしていることは、実行委員会の団結強化づくりです。中央がぶれても地方ではぶれない実行委員会づくりに努力しています。実行委員会は、いつも仲良く助け合ってやっています。

昨日の代議員の発言で、「第三極を批判する発言を聞いたことはありません。」という発言がありました。私は、第三極に批判があるとか、ないということではなく、立憲野党の共同行動に全力を傾注するべきだと主張しています。それでなければ憲法9条改悪を阻止することは出来ないと主張しているのです。弱小の新社会党の力を分散してはいけないということです。

◇資料1◇

新社会党第29回定期全国大会議案修正案（新潟県本部）

第29回定期大会議案の「大会の課題と任務」は、改憲の危機が強まる中、「2 護憲派の総結集を目指す『社民党・市民共同』と「護憲の第三極の強化を目指す」、と提起しています。

しかし25年の参議院選挙と「改憲の国民投票」が同時になるかも知れない局面で、「護憲の第三極」が前端的で良いのか、はなはだ疑問です。

新潟は2014年の「集団的自衛権行使容認」の閣議決定や15年の「戦争法」に反対する行動で、競合関係にあった県平和センターと県労連とが統一街宣を初めて行い、社民党・共産党・新社会党・緑の党・森ゆうこ氏が連帯の挨拶をし、一体感を強めました。この「総がかり行動」の積み重ねが、1人区となった16年参議院選挙新潟選挙区で森ゆうこ氏を「新潟的市民と野党の共闘」の統一候補として当選させることができました。新潟においては旧民主党系の参加など困難もかかえています。政

党の大小に関係なく、権利と主張においては対等平等という「新潟的市民と野党の共闘」の信頼関係が生まれて、その後も勝利してきました。

「野党共闘が不透明」であればなおのこと「市民と野党との共闘」「総がかり行動」で憲法改悪反対の運動を大きく盛り上げる努力を追求すべきです。「21世紀宣言」でも「憲法改悪阻止の大運動を組織し、展開します。この大運動では政策上の違いを残しても、『憲法改悪反対』の一点で共同できるあらゆる団体、個人を総結集するという大胆で柔軟な共同行動を組み上げることが必要です。」と述べているように、「第三極を形成すること」が前面的に出されているが、憲法改悪阻止の大きなうねりになるとは思えません。

新社会党は22年の参議院選挙で、『1人50票の確実票得票』という目標設定を行った。「しかし、得票は1・76万票にとどまった」。この我党の力量の現実を直視すべきです。

よって、以下の通り議案書の修正を提案します。

記

議案書4ページ 「C 主な闘いの総括と方針」の「1 第26回参議院選挙（2022年）と次期国政選挙に向けて」の「(3) 次期参議院選挙・衆議院選挙をいかに闘うか」の修正を求めます。

1、「①25年参院選挙は、憲法改悪国民投票があわせて行われる可能性が高い。憲法を守りたいという市民と立憲野党にとっては、まさに正念場の闘いとなる。しかし立憲野党共闘の成否は不透明である。『護憲』を明確に掲げる新社会党・社民党の役割はますます重要になる。」を

下線の部分を『護憲』を明確に掲げる新社会党・社民党・共産党の役割はますます重要になる。」に修正する。

さらに「憲法改悪に反対する多くの人たちと『市民と野党の共闘』の再結集を図り、『総がかり行動』などを積み重ね、立憲野党の共闘に新社会党も積極的に努力する。」を挿入する。

2、「②新社会党は、臨時大会以後の両党間の協議の推移、『5. 3. 社民党・新社会党共同声明』、大軍拡・戦争準備を強行する政治情勢を踏まえ、社民党との共闘（社民党・市民共同）を全国的に強め、25参院選は『社民党共同名簿』に候補者を擁立し、共同で闘う。」を

下線の部分を「社民党を支援して闘う。」に修正する。

さらに「今、新社会党にとって必要なことは党組織の強化と地方議員を増やして党の体力と影響力を拡げることである。そのために国政積立金残金を活用できるように議論を進める。」を挿入する。

3、「③総選挙は、小選挙区では『立憲野党共闘』の実現に努力し、その勝利に全

力を尽くす。新社会党籍をもって比例名簿登載はできないブロック比例については、2%の社民党政党要件確保を図る。」を

下線の部分を「ブロック比例については護憲政党の議席確保をめざす。」に修正する。

4、④全文削除する。

◇資料2◇

新社会党第29回定期全国大会議案修正案（神奈川県本部）

本部は、第1号議案 2023年度活動方針(案) 「A 大会の課題と任務 1第29回大会の課題」では、戦争する国・出来る国作り勢力との闘いに対し「戦争への危機感と不安が高まる中」、「市民と野党の共闘」、「市民と労働組合、立憲政党の共闘構築に自信をもって奮闘しよう」と提起しています。

しかしながら、「B 情勢の特徴―戦後史の転換点、(8)解散・総選挙をめぐる」、そして「C 主な闘いの総括と方針 (2)次期国政選挙に向けて取り組むべき課題」の②では、「護憲の三極」としています。

神奈川県は、沖繩に次ぐ第二の基地県と言われ、横須賀に「原子力空母の母港」があると共に厚木基地、キャンプ座間、相模補給廠を抱えています。更に今年1月に横浜港の米軍輸送基地「横浜ノースドック」（横浜市神奈川区）に揚陸艇部隊約280名、米軍艦（揚陸艇）13隻の配備が通告され4月16日に幹部要員を配備され、今後部隊の配備が予定されています。

米国の世界戦略の人殺し政策に加担しているのと同じだと考えています。そして先の第二次世界大戦の悲惨な体験にまなび、「再び戦争をしてはならない」と言う事を常に主張してきました。

不戦の誓いである「憲法9条を守ろう・壊してはならない」と声を大にして言いたいのです。国会議員の3分の2以上がウクライナ戦争や台湾有事を利用して「軍事力増強・拡大」を図ろうとしています。

戦争は、「人殺しであると共に勤労国民が築き上げてきた財物を破壊してしまい、何も得るものではありません。その犠牲は、勤労国民だけではありません。」よって戦争に反対する政党や諸団体に共闘を呼び掛ける事は勿論のこと、圧倒的多数の勤労国民への呼び掛けです。

圧倒的多数の勤労国民は、「戦争する国・出来る国作り」まで支持しているのでしようか。私は、総ての国民に「戦争はしない・戦争をさせない・参戦(参加)もしない」事を訴えるべきだと考えています。

本部提案の「護憲の三極」作りに反対です。よって、C主な闘いの総括と方針(2)次期国政選挙に向けて取り組むべき課題②の「護憲の三極」の二か所の削除を求めます。

◇ 読者からのおたより ◇

『空想より科学へ』 『空想より科学へ』の第三章を一ヶ月掛けて熟読？しました。なんと内容豊富な作品かと、改めて感動してしまいました。『宣言』とともに、この書を日本で普及したいとした堺利彦の強い気持ちですが、理解できる気がしています。

2月に入り、「英語版への序文(史的唯物論について)」を、同じように読み始め、新しい発見がありました。労大版の近江谷左馬之介訳と突き合わせて読んでいますが、岩波文庫版大内兵衛訳は「1892年英語版」によるもので、近江谷訳は、エンゲルス自身による英語版からの独逸語訳本版によるものだということです。その為、近江谷訳には、大内訳の95頁6行目から99頁7行目が削除されています。エンゲルスはドイツの読者には削除した部分は不要と考えていたようです。

誠先生(和氣)から聞いたのですが、大内兵衛先生は第一外国語が英語で第二が独逸語、向坂逸郎先生は逆だということです。この二人と共に、誠先生がタクシーに乗っている時、両先生が独逸語と英語のどちらが得意かという話になり、このように話されているのを耳にしたとのことでした。向坂先生が改造社版『全集』の紹介文書を、リヤザノフに書いてもらうために手紙をしたためているのですが、それを誠先生自身で翻訳する必要上、独逸語を学んだのだそうです。向坂家近くに住んでいた小塩節氏に習ったそうです。

私もドイツ語の習得を勧められましたが、そんな時間はとてありませんでした。ではまた。

(2023年2月3日 長野県松本市 中澤秀行)

インボイス 全ての地域で梅雨入り。今年は台風の影響もあり、災害心配です。

田植えは5月27日、28日にやりました。今はすっかり根付き緑が映えています。

呆れてものも言えない政治、でも文句ひとつ言わず我慢している国民。

りんごも不作予想。加えて中間搾取が増えるだけで、実収入はガタ減り予想です。

「インボイス」も他人事と思っていたらわが身に。

裏面は、小海線小海駅前の丸型郵便ポストです。

(「気まぐれ黄昏通信No.204」(2023年7月1日) 長野県飯綱町 山浦隆芳)

IAEA 汚染水海洋放出を国民の大半は反対しているにも関わらず強行しようとしている。

この問題は単に漁業者、飲食業だけの事ではない。命と健康、子孫にまで影響することであると思います。原発事故当時「直ちに影響はない」と連発したのは何故だったのか、「即影響はないが後には影響がある」と言う事であったのか、一時的に被害者を落ち着かせるためのものであったのか真意が分からない。

事故から12年も過ぎた今日になれば放射能濃度が8000 Bqでも安全、汚染土壌を公共事業再利用と何でも安全なのである。

残念なことに原発立地首长までが汚染水海洋放出の工事を認める。復興の妨げになるからという事らしいが、放射性物質はそんな単純なことで済まされない。

事故により放出された大量の放射性物質が放射線を出し続ける限り被害は続くのです。

IAEAの調査団が海洋放出工事が完了したことを受けて現在調査していますが、基本的には推進派の集団ですからストップがかかるとは考えられません。

例えストップをかければ世界の原発は稼働停止となりますから考えられないことです。

(2023年7月1日 原発事故被害者相双の会 國分富夫)